



学校で学び、地域で育つ 慶徳の子 ①

～慶徳御田植祭・早乙女踊りの取組～ 喜多方市立慶徳小学校



喜多方市立慶徳小学校は、国指定重要無形民俗文化財の「慶徳御田植祭」や新宮熊野神社長床、灰塚山古墳など、歴史と伝統文化が息づいている地区にあり、本校の教育目標である「育てよう夢伸ばそう個性 伝統を受け継ぐ慶徳の子の育成」の具現に向けて、学校・地域それぞれの教育力を融合させた様々な取組を積極的に行っています。

今回、そして次回にわたり、慶徳小学校の地域と連携・協働した取組を紹介します。

慶徳御田植祭 ～全校児童が地域の伝統の継承者～

《列年の活動内容》

- ・ 520年続く「慶徳御田植祭」は、毎年7月の半夏生の日に行われ、慶徳小学校の児童が、篠笛とともに神田において早乙女踊りを奉納しています。
- ・ 祭当日は、高学年女子が早乙女踊り、高学年男子が篠笛、中学年が鈴踊りや巫女、白狐に低学年が太鼓引きと、全校児童が地域の伝統行事の継承者として、それぞれの役割を果たしながら参加しています。
- ・ 練習は、4月下旬から始まり、毎週月曜日の放課後に、御田植祭保存会及び慶徳公民館の方々の御指導の下、早乙女踊りや篠笛の練習を行っています。(約10回)



御指導いただく地域の方々へのあいさつ

篠笛の練習をする子どもたち

踊りの練習をする子どもたち



地域と学校の強い思いが重なり、実現した 慶徳稲荷神社「抜穂祭」での早乙女踊りの奉納

《今年の活動》

- ・ 今年の御田植祭は、新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となりました。しかし、「早乙女踊りの奉納の機会を設けたい」、「特に6年生に、小学校生活の思い出を残してあげたい」という御田植祭保存会と慶徳小学校、慶徳公民館の思いが重なり、10月3日に行われる慶徳稲荷神社の「抜穂祭」（稲刈りの神事）において、早乙女踊りを奉納することにしました。
- ・ 当日は、5・6年生のみの参加で、男子の篠笛に合わせ、女子による早乙女踊りを奉納しました。



早乙女踊りを披露する女子児童



篠笛の音色を奏でる男子児童

《児童の感想から》

自分たちの御田植祭が、国の宝物となり、今まで以上に伝統の重みを感じながら踊りました。これからも、この伝統を大切に守り、伝えていこうと思います。

《先生方の感想から》

「学校で学び、地域で育つ慶徳の子」を合言葉に、学校と地域それぞれの教育力を生かした取組が伝統的に行われてきていることの素晴らしさを実感しました。



この実践から学ぶポイント！

児童は、早乙女踊りでの手足の動かし方や、篠笛の音の出し方に苦労しながら、伝統を引き継ぐことの大切さを肌で感じ、真剣な態度で練習に取り組んでいます。

練習、そして祭本番を通して、地域の歴史と伝統を知り、地域の一員として地域行事に積極的に関わることの大切さと素晴らしさを、児童一人一人が実感しています。

学校の教育目標の具現に向かい、学校と地域が一体となって、児童に地域を愛する心情と態度を育てている素晴らしい取組です。